

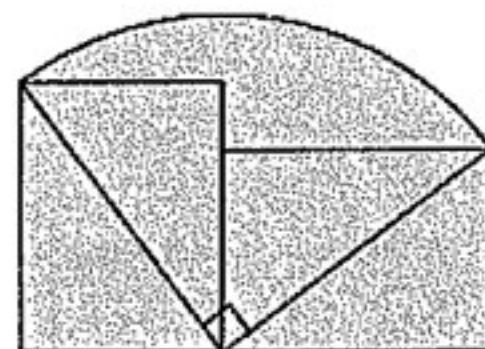
理科第1問

(1)  $V$  は、右図のように、底面の面積が、

(半径  $\sqrt{a^2 + c^2}$  の四分円の面積)  
 $+ 2 \cdot$  (直角をはさむ2辺の長さが  $a$  と  $c$  の直角三角形の面積)  
 $= \frac{\pi}{4}(a^2 + c^2) + ac$

であり、高さが  $b$  の柱であるから、その体積を  $v$  とすると、

$$v = \left\{ \frac{\pi}{4}(a^2 + c^2) + ac \right\} b \quad \dots\dots\dots ①$$



である。

(2) i) まず、 $a + b + c = 1$  を考えて、 $b$  を  $0 < b < 1$  の範囲で固定する。  
 $a + b + c = 1$  のとき、 $a + c = 1 - b$  であるから、①の  $\{ \}$  内は、

$$\begin{aligned} \frac{\pi}{4}(a^2 + c^2) + ac &= \frac{\pi}{4}\{(a + c)^2 - 2ac\} + ac \\ &= \frac{\pi}{4}(1 - b)^2 + \left(1 - \frac{\pi}{2}\right)ac \end{aligned} \quad \dots\dots\dots ②$$

と表される。そこで  $ac$  のとりうる値の範囲を調べる。

$c = 1 - b - a$  であるから、

$$ac = a(1 - b - a) = -a^2 + (1 - b)a = -\left(a - \frac{1 - b}{2}\right)^2 + \frac{(1 - b)^2}{4} \quad \dots\dots\dots ③$$

と表され、 $c > 0$  より、 $a$  は、

$$a > 0 \text{ かつ } 1 - b - a > 0 \quad \text{すなわち、} 0 < a < 1 - b \quad \dots\dots\dots ④$$

の範囲を変化する。よって、③、④より、 $ac$  のとりうる値の範囲は、

$$0 < ac \leq \frac{1}{4}(1 - b)^2 \quad \dots\dots\dots ⑤$$

である。よって、 $1 - \frac{\pi}{2} < 0$  に注意すると、①、②、⑤より、 $v$  のとりうる値の範囲は、

$$\frac{\pi + 2}{8}b(1 - b)^2 \leq v < \frac{\pi}{4}b(1 - b)^2 \quad \dots\dots\dots ⑥$$

である。

ii) 次に、 $b$  を  $0 < b < 1$  の範囲で変化させる。

$$\begin{aligned} f(b) &= b(1 - b)^2 \text{ とおくと、} \\ f'(b) &= (1 - b)^2 - 2b(1 - b) \\ &= (1 - b)(1 - 3b) \end{aligned}$$

より、右表を得る。

ここに、

$$f(0) = f(1) = 0, \quad f\left(\frac{1}{3}\right) = \frac{4}{27} \quad \dots\dots\dots ⑦$$

$b$	(0)		$\frac{1}{3}$		(1)
$f'(b)$		+	0	-	
$f(b)$		↗		↘	

であるから、 $f(b)$  の増減と、⑥、⑦より、求める  $v$  のとりうる値の範囲は、

$$0 < v < \frac{\pi}{27}$$

である。

## 理 科 第 2 問

(1)  $0 \leq x \leq 1$  のとき, すべての自然数  $k$  に対して,  $k \leq k+x \leq k+1$  より,

$$\frac{1-x}{k+1} \leq \frac{1-x}{k+x} \leq \frac{1-x}{k}$$

であるから, 等号が  $x=0$  または  $x=1$  のときにのみ成り立つことに注意すると,

$$\frac{1}{k+1} \int_0^1 (1-x) dx < \int_0^1 \frac{1-x}{k+x} dx < \frac{1}{k} \int_0^1 (1-x) dx$$

である. したがって,

$$\int_0^1 (1-x) dx = \left[ x - \frac{1}{2}x^2 \right]_0^1 = \frac{1}{2}$$

より

$$\frac{1}{2(k+1)} < \int_0^1 \frac{1-x}{k+x} dx < \frac{1}{2k} \dots\dots \textcircled{1}$$

が成り立つ.

$$\begin{aligned} (2) \quad \int_0^1 \frac{1-x}{k+x} dx &= \int_0^1 \left( \frac{k+1}{k+x} - 1 \right) dx = \left[ (k+1) \log |k+x| - x \right]_0^1 \\ &= (k+1) \{ \log(k+1) - \log k \} - 1 \end{aligned}$$

であるから, ① より

$$\frac{1}{2(k+1)} < (k+1) \{ \log(k+1) - \log k \} - 1 < \frac{1}{2k}$$

$$\therefore \frac{1}{2(k+1)^2} < \log(k+1) - \log k - \frac{1}{k+1} < \frac{1}{2k(k+1)}$$

が成り立ち, さらに,

$$\frac{1}{2(k+1)^2} > \frac{1}{2(k+1)(k+2)}$$

であることを考えれば,

$$\frac{1}{2(k+1)(k+2)} < \log(k+1) - \log k - \frac{1}{k+1} < \frac{1}{2k(k+1)}$$

$$\therefore \frac{1}{2} \left( \frac{1}{k+1} - \frac{1}{k+2} \right) < \log(k+1) - \log k - \frac{1}{k+1} < \frac{1}{2} \left( \frac{1}{k} - \frac{1}{k+1} \right)$$

がすべての自然数  $k$  に対して成り立つ. したがって,  $m > n$  であるようなすべての自然数

$m$  と  $n$  に対して,

$$\sum_{k=n}^{m-1} \frac{1}{2} \left( \frac{1}{k+1} - \frac{1}{k+2} \right) < \sum_{k=n}^{m-1} \left\{ \log(k+1) - \log k - \frac{1}{k+1} \right\}$$

$$< \sum_{k=n}^{m-1} \frac{1}{2} \left( \frac{1}{k} - \frac{1}{k+1} \right)$$

すなわち,

$$\frac{1}{2} \left( \frac{1}{n+1} - \frac{1}{m+1} \right) < \log m - \log n - \sum_{k=n}^{m-1} \frac{1}{k+1} < \frac{1}{2} \left( \frac{1}{n} - \frac{1}{m} \right)$$
$$\therefore \frac{m-n}{2(m+1)(n+1)} < \log \frac{m}{n} - \sum_{k=n+1}^m \frac{1}{k} < \frac{m-n}{2mn}$$

が成り立つ.

### 第 3 問

(1) (i)  $0 \leq x \leq 15$  のとき

コインを投げ、表が出れば箱 L のボールの個数は  $x + x = 2x$  個になり、裏が出れば箱 L のボールの個数は  $x - x = 0$  個になる。

箱 L のボールの個数が 0 個のとき、コインを投げ、表が出ても裏が出ても箱 L のボールの個数は 0 個のままである。

よって、 $P_m(x) = \frac{1}{2} P_{m-1}(2x)$  が成り立つ。

(ii)  $16 \leq x \leq 30$  のとき

コインを投げ、表が出れば箱 L のボールの個数は  $x + (30 - x) = 30$  個になり、裏が出れば箱 L のボールの個数は  $x - (30 - x) = 2x - 30$  個になる。

箱 L のボールの個数が 30 個のとき、コインを投げ、表が出ても裏が出ても箱 L のボールの個数は 30 個のままである。

よって、 $P_m(x) = \frac{1}{2} P_{m-1}(2x - 30) + \frac{1}{2}$  が成り立つ。

以上から、

$$P_m(x) = \begin{cases} \frac{1}{2} P_{m-1}(2x) & (0 \leq x \leq 15) \\ \frac{1}{2} P_{m-1}(2x - 30) + \frac{1}{2} & (16 \leq x \leq 30) \end{cases}$$

(2) (1)の結果を繰り返し用いると、 $n \geq 2$  のとき、

$$P_{2n}(10) = \frac{1}{2} P_{2n-1}(20) = \frac{1}{2} \left\{ \frac{1}{2} P_{2n-2}(10) + \frac{1}{2} \right\} = \frac{1}{4} P_{2(n-1)}(10) + \frac{1}{4}$$

これは、 $P_{2n}(10) - \frac{1}{3} = \frac{1}{4} \left\{ P_{2(n-1)}(10) - \frac{1}{3} \right\}$  と変形できるから、 $n \geq 1$  のとき、

$$P_{2n}(10) - \frac{1}{3} = \left\{ P_2(10) - \frac{1}{3} \right\} \left( \frac{1}{4} \right)^{n-1}$$

ここで、

$$P_2(10) - \frac{1}{3} = \frac{1}{2} P_1(20) - \frac{1}{3} = \frac{1}{2} \cdot \frac{1}{2} - \frac{1}{3} = \frac{1}{4} - \frac{1}{3} = -\frac{1}{12}$$

であるから、

$$P_{2n}(10) - \frac{1}{3} = -\frac{1}{12} \left( \frac{1}{4} \right)^{n-1} = -\frac{1}{3} \left( \frac{1}{4} \right)^n$$

(3) (1)の結果を繰り返し用いると、 $n \geq 2$  のとき、

$$\begin{aligned} P_{4n}(6) &= \frac{1}{2} P_{4n-1}(12) = \frac{1}{2} \cdot \frac{1}{2} P_{4n-2}(24) = \frac{1}{4} \left\{ \frac{1}{2} P_{4n-3}(18) + \frac{1}{2} \right\} \cdots \cdots \textcircled{1} \\ &= \frac{1}{8} \left\{ \frac{1}{2} P_{4n-4}(6) + \frac{1}{2} \right\} + \frac{1}{8} = \frac{1}{16} P_{4(n-1)}(6) + \frac{3}{16} \end{aligned}$$

これは、 $P_{4n}(6) - \frac{1}{5} = \frac{1}{16} \left\{ P_{4(n-1)}(6) - \frac{1}{5} \right\}$ と変形できるから、 $n \geq 1$ のとき、

$$P_{4n}(6) - \frac{1}{5} = \left\{ P_4(6) - \frac{1}{5} \right\} \left( \frac{1}{16} \right)^{n-1}$$

ここで、①より、

$$P_4(6) = \frac{1}{8} P_1(18) + \frac{1}{8} = \frac{1}{8} \cdot \frac{1}{2} + \frac{1}{8} = \frac{3}{16}$$

であるから、

$$P_{4n}(6) = \frac{1}{5} + \left( \frac{3}{16} - \frac{1}{5} \right) \left( \frac{1}{16} \right)^{n-1} = \frac{1}{5} \left\{ 1 - \left( \frac{1}{16} \right)^n \right\}$$

第4問

$$C: y = \frac{1}{2}x + \sqrt{\frac{1}{4}x^2 + 2}$$

- (1)  $P_i(x_i, y_i)$  を通る  $x$  軸に平行な直線と、 $y = x$  との交点は  $H_i(y_i, y_i)$  であるから、

$$\triangle OP_iH_i = \frac{1}{2}|(y_i - x_i)y_i|$$

ここで、

$$\begin{aligned} (y_i - x_i)y_i &= \left(\frac{1}{2}x_i + \sqrt{\frac{1}{4}x_i^2 + 2} - x_i\right) \left(\frac{1}{2}x_i + \sqrt{\frac{1}{4}x_i^2 + 2}\right) \\ &= \frac{1}{4}x_i^2 + 2 - \frac{1}{4}x_i^2 \\ &= 2 \dots \textcircled{1} \end{aligned}$$

よって、 $\triangle OP_iH_i = \frac{1}{2} \cdot 2 = 1$  ( $i = 1, 2$ ) であるから、 $\triangle OP_1H_1$  と  $\triangle OP_2H_2$  の面積は等しい。

- (2)  $\frac{1}{2}x + \sqrt{\frac{1}{4}x^2 + 2} > \frac{1}{2}x + \frac{1}{2}|x| \geq 0$

よって、 $C$  は  $y > 0$  を満たす領域にあるから、 $\textcircled{1}$  より、曲線  $C$  の方程式は

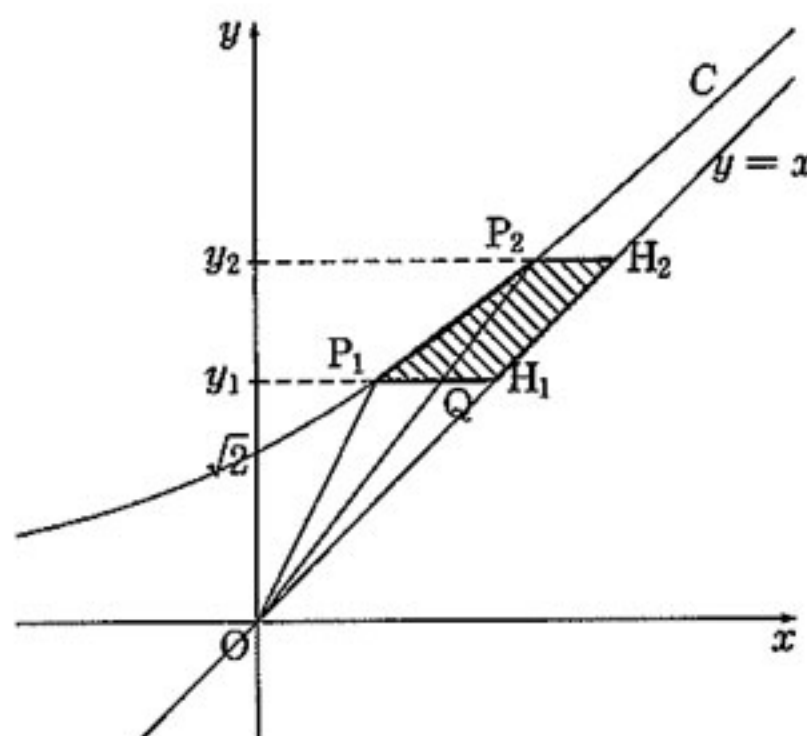
$$x = y - \frac{2}{y} \quad (y > 0)$$

である。

$OP_2$  と  $P_1H_1$  の交点を  $Q$  とすると、  
 $\triangle OP_1H_1 = \triangle OP_2H_2$  より、 $\triangle OP_1Q$  と四角形  $P_2QH_1H_2$  の面積は等しい。

従って、求める面積  $S$  は右図の斜線部分の面積に等しく

$$\begin{aligned} S &= \int_{y_1}^{y_2} \left\{ y - \left( y - \frac{2}{y} \right) \right\} dy = 2 \left[ \log |y| \right]_{y_1}^{y_2} \\ &= 2(\log y_2 - \log y_1) \\ &= 2 \log \frac{y_2}{y_1} \end{aligned}$$



## 理 科 第 5 問

$\triangle PQR$ がPRを斜辺( $\angle PQR = 90^\circ$ )とする直角二等辺三角形であるための条件は  
PRが円Cの直径, かつQが弧PRの中点  
となることであるから,

$$mt - (-2t) = \pi + 2k\pi, \quad t - (-2t) = \frac{\pi}{2} + \ell\pi$$

を満たす整数  $k, \ell$  が存在することであり,

$$(m+2)t = (2k+1)\pi \quad \dots\dots ①$$

$$t = \frac{2\ell+1}{6}\pi \quad \dots\dots ②$$

$0 \leq t \leq 2\pi$  であるから, ②において

$$\ell = 0, 1, 2, 3, 4, 5 \quad \dots\dots ③$$

①と②より  $t$  を消去すると

$$(m+2)\frac{2\ell+1}{6}\pi = (2k+1)\pi$$

$$\therefore (m+2)(2\ell+1) = 6(2k+1) \quad \dots\dots ④$$

ここで,  $2\ell+1$  および  $2k+1$  は奇数であり, 6は2で割り切れるが4で割り切れないから,

$m+2$  は2で割り切れるが, 4で割り切れない整数  
であり,  $3 \leq m+2 \leq 12$  より  
 $m+2 = 6$  または  $10$

である。

(i)  $m+2 = 6$  すなわち  $m = 4$  のとき, ④は

$$6(2\ell+1) = 6(2k+1) \quad \therefore \ell = k$$

となり, ③における任意の  $\ell$  に対して整数  $k$  は存在する。

(ii)  $m+2 = 10$  すなわち  $m = 8$  のとき, ④は

$$5(2\ell+1) = 3(2k+1)$$

5と3は互いに素であるから,  $2\ell+1$  が3で割り切れることが整数  $k$  が存在するための条件であり, ③においては

$$\ell = 1, 4$$

に限られる。

以上より,

$$(m, \ell) = (4, 0), (4, 1), (4, 2), (4, 3), (4, 4), (4, 5), (8, 1), (8, 4)$$

であり, ②より  $t$  を求めて

$$(m, t) = \left(4, \frac{\pi}{6}\right), \left(4, \frac{\pi}{2}\right), \left(4, \frac{5}{6}\pi\right), \left(4, \frac{7}{6}\pi\right), \left(4, \frac{3}{2}\pi\right),$$

$$\left(4, \frac{11}{6}\pi\right), \left(8, \frac{\pi}{2}\right), \left(8, \frac{3}{2}\pi\right)$$

(1) 四面体OABCの4つの面はすべて合同なので

$$OA = BC = 3, \quad OB = CA = \sqrt{7}, \quad AB = OC = 2$$

より

$$\begin{aligned} |\overline{AB}|^2 &= |\overline{OB} - \overline{OA}|^2 \\ \therefore |\overline{AB}|^2 &= |\overline{OB}|^2 - 2\overline{OB} \cdot \overline{OA} + |\overline{OA}|^2 \\ \therefore \overline{OB} \cdot \overline{OA} &= 6 \end{aligned}$$

同様に

$$\overline{OB} \cdot \overline{OC} = 1, \quad \overline{OA} \cdot \overline{OC} = 3$$

いま, Hは平面OAB上にあるので

$$\overline{OH} = \alpha\overline{OA} + \beta\overline{OB} \quad (\alpha, \beta \text{は実数})$$

とおくことができ,  $\overline{CH} \perp (\text{平面}L)$ より,

$$\begin{aligned} \overline{CH} \cdot \overline{OA} &= 0 \quad \text{かつ} \quad \overline{CH} \cdot \overline{OB} = 0 \\ \therefore (\alpha\overline{OA} + \beta\overline{OB} - \overline{OC}) \cdot \overline{OA} &= 0 \quad \text{かつ} \quad (\alpha\overline{OA} + \beta\overline{OB} - \overline{OC}) \cdot \overline{OB} = 0 \\ \therefore \alpha|\overline{OA}|^2 + \beta\overline{OB} \cdot \overline{OA} - \overline{OC} \cdot \overline{OA} &= 0 \quad \text{かつ} \quad \alpha\overline{OA} \cdot \overline{OB} + \beta|\overline{OB}|^2 - \overline{OC} \cdot \overline{OB} = 0 \\ \therefore 9\alpha + 6\beta - 3 &= 0 \quad \text{かつ} \quad 6\alpha + 7\beta - 1 = 0 \end{aligned}$$

$$\therefore \alpha = \frac{5}{9}, \quad \beta = -\frac{1}{3}$$

よって

$$\overline{OH} = \frac{5}{9}\overline{OA} - \frac{1}{3}\overline{OB}$$

と表される。

(2) (1)の結果と $\overline{OP}_t = t\overline{OA}$ ,  $\overline{OQ}_t = t\overline{OB}$ であることから

$$\overline{OH} = \frac{5}{9} \cdot \frac{1}{t}\overline{OP}_t - \frac{1}{3} \cdot \frac{1}{t}\overline{OQ}_t$$

と表せるので, 点Hが直線 $P_tQ_t$ 上にあるとき

$$\frac{5}{9t} - \frac{1}{3t} = 1 \quad \therefore t = \frac{2}{9} \quad \dots\dots\dots (*)$$

また

$$\begin{aligned} |\overline{CH}|^2 &= \left| \frac{5}{9}\overline{OA} - \frac{1}{3}\overline{OB} - \overline{OC} \right|^2 \\ &= \frac{25}{81}|\overline{OA}|^2 + \frac{1}{9}|\overline{OB}|^2 + |\overline{OC}|^2 - \frac{10}{27}\overline{OA} \cdot \overline{OB} + \frac{2}{3}\overline{OB} \cdot \overline{OC} - \frac{10}{9}\overline{OC} \cdot \overline{OA} \\ &= \frac{24}{9} \end{aligned}$$

$$\therefore |\overline{CH}| = \frac{2\sqrt{6}}{3}$$

以下、平面 $M$ と直線 $OC$ との交点を $C_t$ とし、 $P = P_{\frac{2}{9}}$ 、 $Q = Q_{\frac{2}{9}}$ として、(\*)を考え場合分けする。

(i)  $0 < t \leq \frac{2}{9}$  のとき

四面体 $OABC$ の平面 $M$ による切り口は三角形 $C_tP_tQ_t$ となり、 $\triangle C_tP_tQ_t$ と $\triangle CPQ$ が相似であって、 $P_tQ_t:PQ = t:\frac{2}{9}$ であるから

$$\begin{aligned} S(t) &= \triangle CPQ \times \left(\frac{t}{\frac{2}{9}}\right)^2 = \frac{1}{2} \cdot \frac{2}{9} AB \cdot \frac{2\sqrt{6}}{3} \times \frac{81}{4} t^2 \\ &= \frac{4\sqrt{6}}{27} \times \frac{81}{4} t^2 = 3\sqrt{6}t^2 \end{aligned}$$

(ii)  $\frac{2}{9} < t < 1$  のとき

平面 $M$ と線分 $CA$ 、 $CB$ との交点をそれぞれ $A_t$ 、 $B_t$ とすると、平面 $M$ と辺 $AB$ が平行であることより $A_tB_t$ と $AB$ は平行であるから、四角形 $A_tB_tQ_tP_t$ は $A_tB_t$ と $P_tQ_t$ が平行な台形である。直線 $P_tA_t$ と直線 $Q_tB_t$ の交点は $C_t$ であり、 $\triangle C_tP_tQ_t$ 、 $\triangle C_tA_tB_t$ 、 $\triangle CPQ$ が相似であることより

$$S(t) = \triangle CPQ \times \left(\frac{t}{\frac{2}{9}}\right)^2 \left\{1 - \left(\frac{A_tB_t}{P_tQ_t}\right)^2\right\}$$

ここで、

$$CA_t:CA = PP_t:PA = \left(t - \frac{2}{9}\right) : \left(1 - \frac{2}{9}\right)$$

より

$$A_tB_t = \frac{t - \frac{2}{9}}{1 - \frac{2}{9}} AB = \frac{2(9t - 2)}{7}$$

$$P_tQ_t = t \cdot AB = 2t$$

であるから、

$$S(t) = \frac{4\sqrt{6}}{27} \times \frac{81}{4} t^2 \left\{1 - \left(\frac{9t - 2}{7t}\right)^2\right\} = 3\sqrt{6}t^2 \left(1 + \frac{9t - 2}{7t}\right) \left(1 - \frac{9t - 2}{7t}\right)$$

$$= \frac{12\sqrt{6}}{49}(8t-1)(1-t)$$

以上より

$$S(t) = \begin{cases} 3\sqrt{6}t^2 & (0 < t \leq \frac{2}{9}) \\ \frac{12\sqrt{6}}{49}(8t-1)(1-t) & (\frac{2}{9} < t < 1) \end{cases}$$

(3) (2)より,  $S(t)$ は  $0 < t \leq \frac{2}{9}$  のとき単調に増加し,  $\frac{2}{9} < t < 1$  のとき

$$S(t) = -\frac{96\sqrt{6}}{49}\left(t - \frac{9}{16}\right)^2 + \frac{3\sqrt{6}}{8}$$

であるから,  $t = \frac{2}{9}$  で連続であることも考え,  $S(t)$ の最大値は

$$S\left(\frac{9}{16}\right) = \frac{3\sqrt{6}}{8}$$

理科第6問

[別解]

与えられた四面体の条件より,  $O(0,0,0)$ ,  $A(3,0,0)$ ,  $L$ が $xy$ 平面であるような $xyz$ 空間座標を設定する.

$B(u,v,0)$  [ $v > 0$ ] とすると,  $OB = \sqrt{7}$ ,  $AB=2$  より,

$$u^2 + v^2 = 7, (u-3)^2 + v^2 = 4, v > 0$$

より,  $B(2, \sqrt{3}, 0)$  と定まる.

また,  $C(x,y,z)$  [ $z > 0$ ] とすると,  $OC=2$ ,  $AC=\sqrt{7}$ ,  $BC=3$  より,

$$x^2 + y^2 + z^2 = 4, (x-2)^2 + (y-\sqrt{3})^2 + z^2 = 9, (x-3)^2 + y^2 + z^2 = 7$$

より,  $C\left(1, -\frac{1}{\sqrt{3}}, \frac{2\sqrt{2}}{\sqrt{3}}\right)$  と定まる.

(1) 上の考察より,  $H\left(1, -\frac{1}{\sqrt{3}}, 0\right)$  である.

そして, 4点 $O$ ,  $A$ ,  $B$ ,  $H$ は平面 $L$ 上にあるので, 3点 $O$ ,  $A$ ,  $B$ が三角形を作ることに注意すると,

$$\overrightarrow{OH} = \alpha \overrightarrow{OA} + \beta \overrightarrow{OB}$$

となる実数 $\alpha, \beta$ が存在する. この成分を考えると,

$$1 = 3\alpha + 2\beta, -\frac{1}{\sqrt{3}} = \sqrt{3}\beta \quad \therefore \alpha = \frac{5}{9}, \beta = -\frac{1}{3}$$

$$\therefore \overrightarrow{OH} = \frac{5}{9}\overrightarrow{OA} - \frac{1}{3}\overrightarrow{OB}$$

(2)  $P_t(3t, 0, 0)$ ,  $Q_t(2t, \sqrt{3}t, 0)$ と表されるので, 直線 $P_tQ_t$ の方程式は,

$$\sqrt{3}x + y = 3\sqrt{3}t$$

であり, これが点 $H$ を通るとき,

$$\sqrt{3} - \frac{1}{\sqrt{3}} = 3\sqrt{3}t, \quad \text{すなわち, } t = \frac{2}{9}$$

であるから,  $0 < t \leq \frac{2}{9}$ のとき切り口は三角形,  $\frac{2}{9} < t < 1$ のとき切り口は四角形である.

ここで,  $t$ によらず $P_tQ_t = t \cdot AB = 2t$ であることに注意する.

i)  $0 < t \leq \frac{2}{9}$ のとき, 切り口は底辺が $P_tQ_t = 2t$ であり, 高さが

$$\frac{t}{2} \cdot CH = \frac{9}{2}t \cdot \frac{2\sqrt{2}}{\sqrt{3}} = 3\sqrt{6}t$$

の三角形であるから,

$$S(t) = \frac{1}{2} \cdot 2t \cdot 3\sqrt{6}t = 3\sqrt{6}t^2$$

である.

ii)  $\frac{2}{9} < t < 1$  のとき、切り口の四角形は 1 組の対辺が辺 AB に平行な台形で、下底が

$P_tQ_t = 2t$ , 上底が

$$\frac{t - \frac{2}{9}}{1 - \frac{2}{9}} \cdot AB = \frac{2(9t - 2)}{7}$$

であり、高さが、

$$\frac{1-t}{1-\frac{2}{9}} \cdot CH = \frac{9(1-t)}{7} \cdot \frac{2\sqrt{2}}{\sqrt{3}} = \frac{6\sqrt{6}}{7}(1-t)$$

であるから、

$$S(t) = \frac{1}{2} \left[ \frac{2(9t-2)}{7} + 2t \right] \frac{6\sqrt{6}}{7} (1-t) = \frac{12\sqrt{6}}{49} (8t-1)(1-t)$$

である。

(3) (2)の結果より、 $0 < t \leq \frac{2}{9}$  のとき  $S(t)$  は増加関数であり、 $\frac{2}{9} < t < 1$  のときは、

$$S(t) = \frac{12\sqrt{6}}{49} \left[ -8 \left( t - \frac{9}{16} \right)^2 + \frac{49}{32} \right]$$

と変形できるので、 $S(t)$  は  $t = \frac{2}{9}$  で連続であることも考え、最大値

$$S\left(\frac{9}{16}\right) = \frac{3\sqrt{6}}{8}$$

をとる。